

最高賞「ロボコン大賞」受賞

こども少年少女発明クラブが活躍

こども少年少女発明クラブ(会長・沼田雅輝)が出場した第16回青森県・げんねんジュニアロボットコンテスト。2月14日(土)六ヶ所村体育館で開催され、同クラブから10人がエントリーしました。

今年は選手宣誓を務めた2人が大活躍しました。長谷川未侑さん(小泊中1年)は、上級部門で最高賞である「ロボコン大賞」に、川山雄輝くんは中級部門で見事優勝しました。

大会は、初級「ロボカップ相撲六ヶ所場所」、中級「ロボ-1グランプリ4」、上級「ボール・オン・タワー」の3種目に分かれて行われました。初級部門では団体戦で久保田希空くん(小泊小4年)、吉田晴翔くん(小泊小4年)、久保田優くん(小泊小5年)のチームが3位、上級では、山田法康くん(小泊中3年)が審査員特別賞である「技術賞」を受賞しました。

受賞した7人は、3月11日(水)に役場を訪問し、小野町長に大会結果を報告しました。町長は「よく頑張った。最高賞受賞とは素晴らしい。毎年、良い結果を残しているのは、みなさんの努力の結果だ。次回も後輩たちには頑張ってもらいたい。期待している」と激励しました。大賞の長谷川さんは「このような大きい賞をとれてうれしい。支えてくれたクラブのメンバー、指導員、家族に感謝したい」と受賞を喜んでいました。



みんなで水産資源を守る!

密漁防止対策講習会

手口が巧妙化し、漁師たちの生活を脅かす密漁を阻止しようと、小泊漁業協同組合と小泊磯廻り組合が、3月19日(木)日本海漁火センターで密漁防止対策講習会を開催しました。

主催者を代表して、小泊漁業協同組合理事・小泊磯廻り組合長の越野義春氏が「我々漁師は厳しい経営を迫られているが、近年はアワビ・サザエの水揚げが好調をみせている。この貴重な資源を守るため密漁を阻止し浜を守っていただくため、今日は密漁者への対処方法などを学んで役立ててもらいたい」とあいさつしました。

講習会には、組合員やその関係者約150人が参加しました。講演は、①県警本部生活安全部保安課職員から密漁防止策、②県農林水産部水産局水産振興課職員からは、漁業のルールと課題、③県漁業協同組合連合会指導部職員からは、密漁防止対策と監視体制について講演があり、参加者たちは、熱心に耳を傾けていました。

漁業の活性化に役立てたい

赤石さんが「浜の未来塾」で学ぶ

浜の未来塾の閉講式が、3月16日(月)青森市・アラスカ会館で行われました。この「浜の未来塾」は、漁村の活性化を担う人材育成を目的に、青森県が漁業規則などの法律や水産物の販売マネジメントなどの講義と、地域の実践活動を指導しているものです。

今年度は小泊漁業協同組合職員の赤石玲治さんがこの閉講式で、三村青森県知事より「浜の未来塾・修了書」を授与されました。赤石さんは「この浜の未来塾で学んだことを生かして、小泊地域の漁業の活性化に努めたい」と話していました。



公民館情報

2月から3月は行事がたくさんありました

■そば打ち体験講座(2月7日)

第2回目のそば打ち体験講座を開催しました。今回も熊木敏彦氏が講師を務め、小学生から大人まで13人がそば打ちを体験しました。はじめに講師がデモンストレーション。だんだん、そばの形になってくると参加者たちは「すごいね。おいしそう」と感心していました。いざ自分で作るとうまくいった人といかなかった人もいましたが、2年連続で参加した人は「回を重ねるごとにうまくできる」と笑顔で話していました。自分で打ったそばは格別。その場でゆでて、美味しく頂きました。



■雑祭り企画親子でクッキング!(3月1日)

ヒューア「パン菓子加工施設」で松しま本店・松島史一氏を講師に招いて、タルト生地を使った雑ケーキを作りました。タルトの生地は作ってから時間を置かなければならないので、松島氏が準備していた生地やクリームを使って、型に張り付けたりクリームを流し込んだりしました。また実際に生地づくりにも挑戦して、親子で協力しながら行っていました。タルトが焼きあがったあとは、人形にチョコレートで顔を描いたり、イチゴでデコレーションするなど、思い思いの雑ケーキを作っていました。最後は遊び心を取り入れて、タルトとチョコレートを使ったタヌキ型のケーキを作っていました。



加藤楓登くん

三上海琴さん

中泊町の未来を描く

中里小学校卒業生がポスターづくり

卒業が迫った中里小学校6年生が3学期、総合的学習の一環で「町の未来ポスター」を完成させました。

作品には、マグロ、トマトやブルーベリーなど町の特産品をPRするもの、自分たちが理想とする助け合う仲良しの町のこと、運動・禁煙・減塩など健康を重視する長寿の町のこと、中里地域にほしいコンビニのことなど児童たちは、それぞれの考えたアイデアをポスターに描きました。

児童たちは「小学校生活では、ふるさと学習や子ども議会

会で、これまで知らなかった地元のことを学ぶことができ

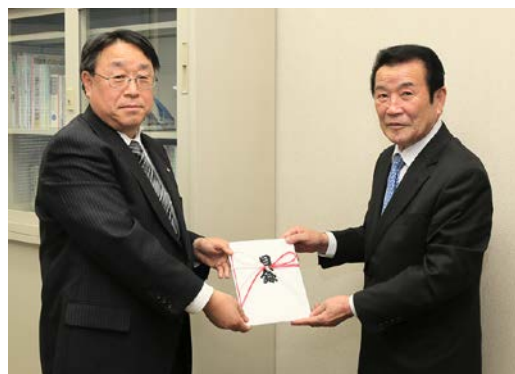
てよかった。中学校でもこの経験を生かして勉強・部活に励みたい」と抱負を話していました。

町の社会福祉へ活用を

竹内組が社協へ寄附金

竹内グループ代表・竹内忠義氏が、3月23日(月)町社会福祉協議会・秋元良一会長を訪問し、町の社会福祉に役立ててほしいと寄附金の目録を贈呈しました。

竹内氏は「町の福祉活動に活用していただきたい」と目的を伝えました。これに対して、秋元会長は「大変ありがたい。地域福祉推進のため、当会の事業に有効に活用させていただきたい」と感謝を述べました。



いままでありがとう、さようなら

中里保育所でお別れ会

中里保育所で3月25日(水)、お別れ会が行われました。この会では、1年間を振り返り、入所式、運動会、お遊戯会などで披露した歌・体操・お遊戯などを懐かしそうに歌って踊りました。

来年小学校へと進む児童には、先生や後輩児童たちからプレゼントが手渡されました。修了する子どもたちはそれぞれ将来の夢を発表。「消防士、警察官、サッカー選手、大工、美容師、モデルになりたいです」と元気よく発表していました。担任の山田先生は「修了おめでとう。小学校ではいっぱい勉強して、いっぱいごはんを食べて大きくなってね」と応援のメッセージを送りました。最後に3月末で中里保育所での勤務を終える先生たちが並び「いままでありがとう。会ったら声をかけてね」と涙をこらえながらお別れのあいさつをしました。



福祉サービスの向上へ

社会福祉協議会へ福祉車両贈呈

本財団より中泊町社会福祉協議会へ福祉車両が贈呈され、3月25日(水)社会福祉協議会で贈呈のセレモニーを行いました。

秋元会長は「この車両の寄贈は、日本財団のご理解のおかげ。買い物や通院などサービス向上が期待できる。財団の趣旨に沿うよう活用していきたい」とあいさつしました。

車両贈呈として、青森ダイハツモータース五所川原支店須藤氏がレプリカキーを手渡しました。続いて、利用者を代表し、秋元正美さん(豊島)が「私たち高齢者にとっては非常にありがたいこと。色々な場面で活用してほしい」と贈呈を喜びました。贈呈式後は実際に車いすでの乗降を体験していました。協議会では、日本財団からの念願の初贈呈となりました。通院などのサービスに活用していくとのことでした。

優良団体として農林水産大臣賞

十三湖土地改良区が受賞

十三湖土地改良区・野上憲幸理事長をはじめ理事のみなさんが、3月27日(金)小野町長を訪問し、農林水産大臣賞を受賞したことを報告しました。受賞理由として、地域農業の発展のため団体の運営強化につとめ、土地改良事業の推進に尽くした成果が特に優秀であることを評価されました。この受賞をうけて野上理事長は「このように国から評価を受けたことは大変ありがたいこと。今後も地域農業の発展につとめていきたい」と抱負を述べました。



心配ごと相談 町社会福祉協議会

中里地域

4月22日 竹内 恭一、荒関 徳勝

5月13日 葛西嘉四次、秋元 武弘

相談場所 役場相談室
相談時間 午前9時～正午

小泊地域

4月15日 藪田由比子

長内エツ子

相談場所 日本海漁火センター
相談時間 午前9時～正午

※4月より相談時間の終了時間が「14時」→「正午」となります。
大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

なんでも行政相談

日時…4月21日(火) 午前9時～12時

場所…中央公民館

行政相談委員…秋元 武弘、藪田由比子

※行政相談は、住民から寄せられた苦情や意見・要望を、住民と関係行政機関との間に立って、公正・中立な立場から必要なあっせんを行い、その解決や実現の促進を図ります。